

# 平成22年度 日本花菖蒲協会観賞旅行記

福岡県苅田町 高垣治海

平成22年度協会の観賞旅行は、東京周辺ということで、入会まもない会員ですが、夫婦で北九州から、メッカ巡礼よろしく参加させていただきました。

## ●1日目 6月12日(晴れ)

羽田から大船駅迄の交通手段と所要時間に不案内で、とにかく早めにと北九州発6時40分、羽田8時10分着に乗り横浜には9時30分に着いておりました。大船駅集合12時30分には十分な時間でした。首都圏の交通網の良さにまず感心。大船駅西口から、タクシーに分乗して神奈川県立大船フラワーセンターへ向かいました。

神奈川県立フラワーセンター大船植物園のあらまは、昭和37年に神奈川県立農業試験場の跡地に開設され、大正時代から改良育成された「はなしょうぶ」「しゃくやく」や「ばら」「しゃくなげ」等を中心に、国の内外から収集した、5千種余りの品種が四季の彩を楽しませてくれる園です。

園の花菖蒲は、明治の末頃から昭和の初めにかけて、この地で改良された独自の大船系と呼ばれる系統品種の他に、江戸系・肥後系・伊勢系約160種1,300株余りが見られるとのことでした。

堀状の菖蒲田は、足元から先の方へ見通せ、花の重なりと色のバランスの良さを感じました。協会主催の花菖蒲展示会の会場は、役員さん方の周到的な準備と運営が目を引き、金屏風の前の最優秀作は、花自身の晴れがましい気持ちが伝わって来る様でした。



会場に入って右手に並べられた出品作は、鉢を流水のごとく曲線に草丈の高低を巧みに利用した展示の演出は、すばらしく初めての出会いでした。

午後3時フラワーセンターを出発、乗合バスで大船駅へ、JRで石川町駅下車。記念祝賀会場の設定された横浜中華街へ向かいました。

幕末に横浜の港が開かれ諸外国から訪れた欧米人に伴って来た中国人に華僑貿易商が現れ、明治初年には千人もが居留地の一角に集り四つの牌楼門に囲まれた今の中華街の元を築いたと色々な歴史があると言われます。

記念祝賀会場は、この街の山下公園に近い上海通りに面した「菜香新館」で、人気の店の様でした。記念式典後の祝賀会は、盛大に行われ会員の皆様とは初対面でしたが旧知のように、接して下さった楽しい宴も、全員での記念撮影でお開きとなりました。



## ～引き続き横浜湾遊覧～

午後七時遊覧船マリンシャトルに乗船、棧橋を離れて次第に暮れゆく横浜の街を海上から眺めると、「よこはまコスモワールド」の大観覧車コスモクロックの放つ万華鏡の様なイルミネーション・種々の港湾施設や横浜ベイブリッジの照明等が、人の造ったものの美しさを観せてくれ、心地よい風と共に素敵な一時でした。

今一度夜の中華街の喧嘆の中を抜け横浜スタジアム前のホテルへ向い一日目を終了しました。

## ● 2日目 6月13日(晴れ)

全員元気にフロントに集合、予定通り午前8時貸切バスにて出発。9時に明治神宮御苑着。都心の森の中、大鳥居から北門より隔雲亭の前を下り御釣台から菖蒲園へ向かいました。

### ～明治神宮御苑と花菖蒲田～

明治神宮御苑は、江戸時代初期に熊本藩主加藤家、のちに彦根藩主井伊家の下屋敷の庭園でしたが、明治に宮内庁所管となり代々木御苑と称されました。苑内の花菖蒲は明治26年、明治天皇の思召により昭憲皇太后のために植えられた物と言われ、現在苑内には総て、江戸系品種約150種が徹底保存されています。

谷奥の水源、清正井は横井戸で枯渇しにくい構造で、水温は年間15度程度と安定しているということです。蛇行する菖蒲田は、奥へ進むにつれその表情と趣きを変え、株立に植えられた江戸系古種を含む品種の花姿と花色の変化を楽しめ、四阿のある少し高みに立つと、菖蒲田が一望出来、熟考された品種配置の妙を特に感じました。



水温の低さが少し気になりましたが、管理の仕方を聞きそびれてしまいました。

スカイツリータワーを見ながら堀切菖蒲園へ移動し、11時30分堀切菖蒲園に着きました。

### ～堀切菖蒲園～

かつしかブックレットによると堀切で花菖蒲の栽培が本格化したのは、19世紀の初め頃で小高園・武蔵園での花菖蒲やあやめの咲く景色が「江戸百景」の一つに数えられ、広重をはじめ多くの浮世絵に描かれている。

明治に入ると株の輸出も積極的になって、明治末期堀切付近の菖蒲園は、小高・武蔵・堀切・観花・吉野園と全盛を向えるが、大正に入り、ヨー

ロッパへの輸出の減少、昭和初期からの環境悪化や戦時下の影響で、昭和10年前後武蔵園・吉野園さらに昭和17年小高園・堀切園も閉鎖されて、戦後復興したのは堀切園のみとのことです。終戦から今日の菖蒲まつりの賑わいを取戻された多くの関係者の苦勞がしのべれます。

菖蒲園の中の静観亭に昼食がすでに準備されており感謝。早速美味しくいただきました。菖蒲まつりの真っ最中で種々のイベントや出店で、人出が多く市民と一体となった、菖蒲まつりの菖蒲は、主役としての栽培を続けなければならない事を特に感じました。

回遊式の庭園内には約200種6千株が15ヶ所程に分けられた田に植えられ、全面的除草と高みに作られた東屋からの眺めは、素晴しさを見せる広い菖蒲園には必要なものと思われました。

### ～午後2時 皇居到着～

駐車場から皇居外苑を皇居前広場の広さを感じながら、大手門を経て東御苑へ移動。途中思いがけないアイスクンデーの差入れがあり、お堀端で皆さんとほっと一息、昔の話も出て楽しくいただきました。大手門を入り三の丸尚蔵館・同心番所・百人番所の前を通り二の丸庭園の菖蒲田へ。

この菖蒲田は、9代将軍家重の時代の庭の絵図面をもとに復元された回遊式庭園の中にあり、明治神宮から89種株分したとされて居ります。

一目で見渡せる広さに、一斉に開花させる見せかたは、広さばかりでは無いテクニックを感じました。午後4時二の丸尚蔵館前で皆さんとお別れとなりましたが、まだもう少しこのまま旅を続けたい思いにかられるお別れでした。

今回の旅行で巡った各園には、それぞれの趣きがありましたが、「宇宙」等の江戸古種が当り前の様に露地植されている事に、関東の花菖蒲をこよなく愛された方々の、計り知れない栽培努力があったものと感じ入りました。

主目的の花菖蒲ばかりでなく、首都東京の便利ではあるけれども、体力のいる世界に驚きと、目まぐるしさ、戸惑いを一気に体験した田舎者の遊行記です。

役員諸氏の御尽力に深く感謝申し上げます。尚、小山章治氏には旅行前から色々とお世話をいただき厚くお礼申し上げます。